



机右新

十一



机

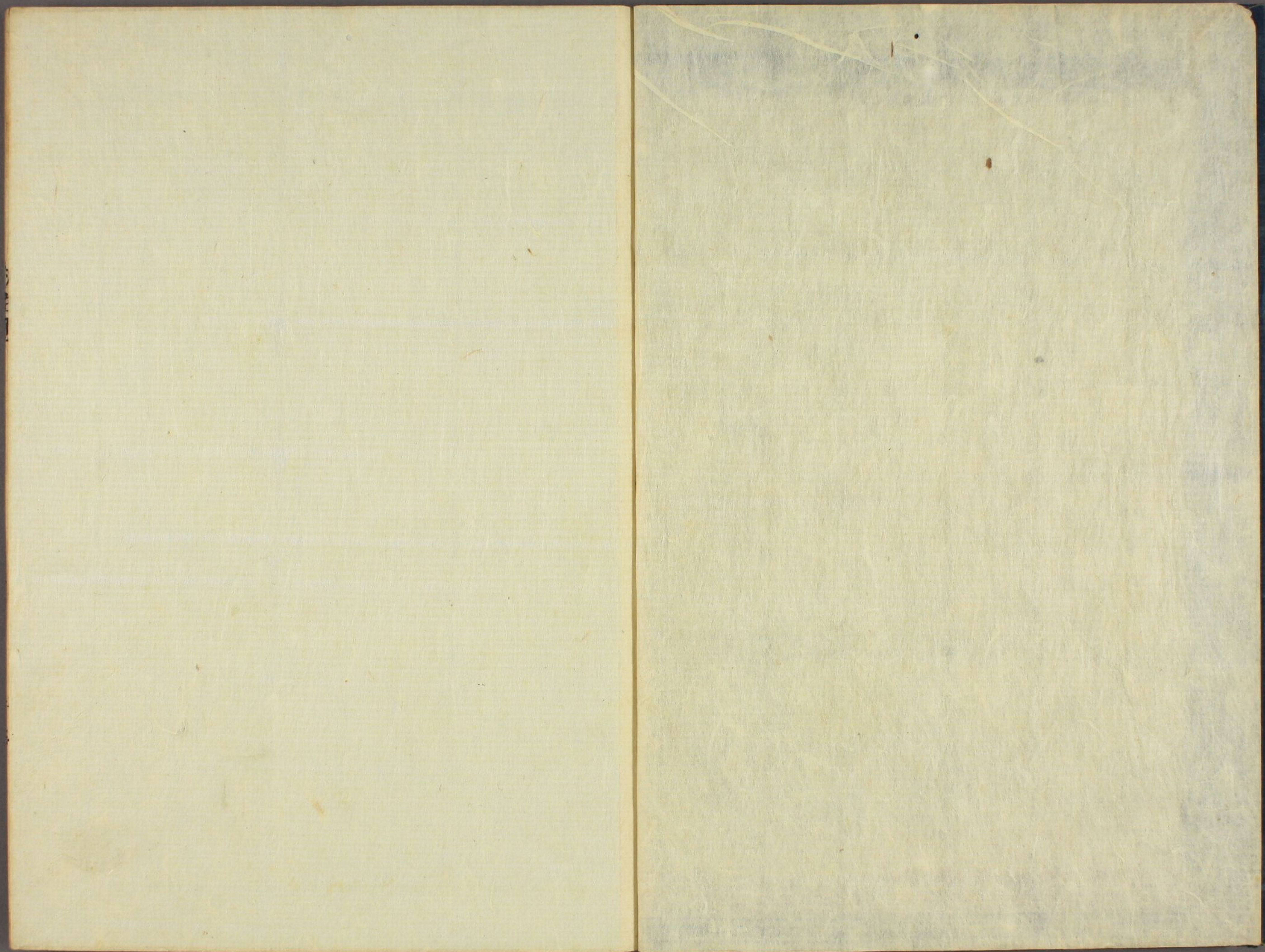
中村俊定文庫

文庫 18

1015

11







松石鈔第十一

安行中

淡路 寺

山城

さう那うて馬より落くもあつ

如鳥

白鳥

名はてしなくおぼろしくその書は我れはよきこと小治り

信濃

仁和のくまこくは河のまゝにそそり

行幸

行幸一はひくろよ

芥川

白鳥

淡路の行幸は芥川の世に道はるなり

七条

菴

菴

小菴の行幸は芥川の世に道はるなり

松成物

菴

花鳥のくまこくは河のまゝにそそり

松成物

淡路寺はうろくはうろくは淡路野り

大酒の忠よりくろくはうろくは淡路野り



ゆりてふゆりけり

初巻 かくてふゆりけり 松尾芭蕉 後巻

とてふゆりてふゆりけり

とてふゆりてふゆりけり

松尾芭蕉 後巻

ゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

日 松尾芭蕉 後巻

ゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

中月約 初巻 松尾芭蕉 後巻

茶

薄

長久二年八月松尾社より約ありけり

とてふゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

ゆりてふゆりけり

念珠よりく布池は好くしては

つらり

日 名はついでに後書は心もいそげ難くは

お大酒を定めておるうりて後書と平此の

後書のありてつらりつらりつらり

日 名はついでに後書は心もいそげ難くは

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

書の中へつらりつらり

日 二年は初めの頃はつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらり

大元寺より得ける由り

飛報中

年終りけりし由り候へども

は新

大元寺世良親王の二女より

なりし由り

日録

なるに世良親王の御孫

は新

文永九年世良親王の御孫

よりし由り

なりし由り

日録

なりし由り

は新

なりし由り

なりし由り

出

日

うりけりし由り

は新

なりし由り

は新

酒造二年世良親王の御孫

よりし由り

なりし由り

なりし由り

は新

なりし由り

なりし由り

なりし由り

日録

なりし由り

は新

なりし由り

花

花を

暮れよ夕なりけりけりいふは花のよ

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

深淵え

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

日

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

麻

日

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

雛

雛

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

室

室

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

室

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

日

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

深

深

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

松

松

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

可

可

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

子

子

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

白

白

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

寺

寺

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

廣

廣

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

場

場

花のよ花のよ花のよ花のよ花のよ

花のよ

佐保川

大和

紫

日

佐保の岸林の紫の葉の茂るを有と云ふ

紫葉

馬

日

佐保の馬場の馬の鳴るを有と云ふ

馬鳴

楊柳

日

佐保の楊柳の葉の茂るを有と云ふ

楊柳

香檳

日

佐保川の香檳の葉の茂るを有と云ふ

香檳

紫花

日

佐保の紫花の葉の茂るを有と云ふ

紫花

口

日

佐保川の水を有と云ふ

水

香檳

日

佐保の香檳の葉の茂るを有と云ふ

香檳

松

日

佐保の松の葉の茂るを有と云ふ

松

松

日

佐保の松の葉の茂るを有と云ふ

松

松

日

佐保の松の葉の茂るを有と云ふ

松

松

日

佐保の松の葉の茂るを有と云ふ

松

馬

日

佐保の馬場の馬の鳴るを有と云ふ

馬鳴

馬

日

佐保の馬場の馬の鳴るを有と云ふ

馬鳴

日

佐保の馬場の馬の鳴るを有と云ふ

馬鳴

初秋（つばき）してさるるをさるるのつばきなり

やうにちりちりいふをさるるつばきなり

書

蓬世

霞のたふたふたるるをさるるつばきなり

結句

去日

上巻

去日（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

蘭

日

蘭（つばき）のつばきなるるをさるるつばきなり

結句

妹作

春

妹作（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

舞

初巻

舞（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

文治六年（つばき）なるるをさるるつばきなり

祢

日

祢（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

宗良

初巻

宗良（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

新子

新子（つばき）なるるをさるるつばきなり

宿尾花

初巻

宿尾花（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

三葉

日

三葉（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

作保教

日

作保教（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

夏後

日

夏後（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

楸

三

楸（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

拱樟

日

拱樟（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

綢布

日

綢布（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

菜梅

日

菜梅（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

花

日

花（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

羽衣

日

羽衣（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

山吹

日

山吹（つばき）なるるをさるるつばきなり

結句

藤

日

水にひびくけり三河の末氣流より

日暮

橋

日

うらたふみ此に橋中流より下流より

長門

紫

日

らに紫雲の橋の横中流より

源

鞍

日

西橋より作保の河津より

無名

舟

日

夕なれを舟中より見方より

龍

舟

日

夜舟の作保の河津より

龍

麻

日

麻糸の舟中より河津より

龍

橋

日

ふたりの橋の舟中より

龍

駒

日

うらたふみ此に橋中流より

龍

後

日

後舟の舟中より河津より

龍

後舟

日

堤

日

堤の舟中より河津より

龍

藤

日

藤の舟中より河津より

龍

芦

日

芦の舟中より河津より

龍

柳

日

柳の舟中より河津より

龍

草

日

草の舟中より河津より

龍

草

日

草の舟中より河津より

龍

後舟

日

駒

日

駒の舟中より河津より

龍

雨

日

雨の舟中より河津より

龍

石

日

石の舟中より河津より

龍

石

日

石の舟中より河津より

龍

月

三月 月... 松原... 松原...

松原... 松原...

穀

日 穀... 松原...

松原... 松原...

松原

日 松原... 松原...

松原... 松原...

橋

百葉 橋... 松原...

松原... 松原...

神

初... 松原...

松原... 松原...

弓

松原... 松原...

松原... 松原...

名

子... 松原...

松原... 松原...

月

日 月... 松原...

松原... 松原...

甲

松原... 松原...

寫

松原... 松原...

蘇

日 蘇... 松原...

松原... 松原...

松

松原... 松原...

若

松原... 松原...

浦

日 辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

日 辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

日 辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

尾

辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

者月

辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

衆抄

辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

松野

辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

年記

辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

各

辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

麻

辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

虫

辰巳浦の月とありて辰巳の浦とありて中とあり

榎

日 伏見の榎の種とありて榎の種とありて中とあり

芝

日 伏見の芝の種とありて芝の種とありて中とあり

坂

日 伏見の坂の種とありて坂の種とありて中とあり

史料 伝説

伏見の榎の種とありて榎の種とありて中とあり

伏見の芝の種とありて芝の種とありて中とあり

伏見の坂の種とありて坂の種とありて中とあり

伏見の榎の種とありて榎の種とありて中とあり

伏見の芝の種とありて芝の種とありて中とあり

伏見の坂の種とありて坂の種とありて中とあり

凡右十一

卯花

五月

文科の多たなる卯花の消ゆるやまら

巨威

松

五月

卯の松風とてつる卯花の消ゆるやまら

松花

新

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

新花

菊

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

菊花

紫

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

紫花

田

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

田花

駒

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

駒花

月

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

月花

卯花

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

卯花

花

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

花

萱

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

萱

青

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

青

馬

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

馬

萩

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

萩

煙

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

煙

霧

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

霧

清滝

森

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

清滝

月

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

月

高根

五月

文科の消ゆる卯花の消ゆるやまら

高根

心次

同奉

心次は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

高相

同奉

高相は清滝川と池ありて清滝川のほとり

松林

高松

高松寺あり清滝川のほとり

あり

同奉

世に清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

舟心後

同奉

舟心後は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

舟心

同奉

舟心は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

花

同奉

花は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

藤

同奉

藤は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

雲

同奉

雲は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

雲

同奉

雲は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

松

同奉

松は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

北野

日

北野は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

同奉

北野は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

北野は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松

同奉

松は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

松は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

同奉

松は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松林

松は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

松は清滝川のほとりには竹の森あり山吹

お節の文いふ御してつものうら

おむゆり

才とほくあつたあはるは漢をうめさうらつ

一長松を執るを死るをうけり

一長松 難 虎の形に似たる松と云はれぬ

馬場 金 林のふりや節のうめさうらのあつた人の言

草むき 家 けさつた節のうめさうらにさうらつた

何 類 何のうめさうらにさうらつた節の松はさうら

何 類 何のうめさうらにさうらつた節の松はさうら

何 類 何のうめさうらにさうらつた節の松はさうら

何 類 何のうめさうらにさうらつた節の松はさうら

花 日 一初は節の松のあつた二長松をさうら

花 日 一初は節の松のあつた二長松をさうら

花 日 一初は節の松のあつた二長松をさうら

花 日 一初は節の松のあつた二長松をさうら

花 日 一初は節の松のあつた二長松をさうら

花 日 一初は節の松のあつた二長松をさうら

花 日 一初は節の松のあつた二長松をさうら

花 日 一初は節の松のあつた二長松をさうら

貴布祿 日

男はははははははははははははははは

さうらつた節のうめさうらにさうらつた

日 地蔵のまじりて身よりけりていせりていせりて
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

はかひとていせりていせりていせりていせりて
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

大田

日 大田のまじりて身よりけりていせりていせりて
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

九月より大田部とていせりていせりていせりて
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

和泉

日 和泉のまじりて身よりけりていせりていせりて
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

菅

日 菅のまじりて身よりけりていせりていせりて
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

川

日 川のまじりて身よりけりていせりていせりて
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

和泉

日 和泉のまじりて身よりけりていせりていせりて
和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部 和泉部

尾 日 粧めつとくは美有縁川定和越つ終の白玉 威家

清河系 赤

古所 見 夕 位是す切日望を想国清河系とれら終 高春

暮 暗きりや一ゆん月影のさうたは赤いもの 古言

子書 新々 じふ数書の更け人柳する清河系に多き也 河朔

月 後 概中清河原の更けのさうたは月 赤人

蛇 本 地清河原をさうたは越えて赤い 長人

柳 日 けりて玉中かき柳する清河原よりさうた 佐天

山後 日 ちを清河系は後へゆりて赤い 長人

清河 集

あめつとくは美有縁川定和越つ終の白玉

あめつとくは美有縁川定和越つ終の白玉
ゆりて玉中かき柳する清河原よりさうた

あめつとくは美有縁川定和越つ終の白玉
あめつとくは美有縁川定和越つ終の白玉
あめつとくは美有縁川定和越つ終の白玉

尾 日 粧めつとくは美有縁川定和越つ終の白玉 威家
古所 見 夕 位是す切日望を想国清河系とれら終 高春
暮 暗きりや一ゆん月影のさうたは赤いもの 古言
子書 新々 じふ数書の更け人柳する清河系に多き也 河朔
月 後 概中清河原の更けのさうたは月 赤人
蛇 本 地清河原をさうたは越えて赤い 長人
柳 日 けりて玉中かき柳する清河原よりさうた 佐天
山後 日 ちを清河系は後へゆりて赤い 長人

月 日 初森 さまさくふに身くもゆきははるまの具の全か 佐治

鳥居 日 法入信并をく之れ左象を保の沖は流るり る氏

駒花 日 節と平 物りてささくも物信信りて安花はの用さ 弘和

磯山 日 日中 法入信并に中さ物入鳥居らと保の松原 五雲座

長子 日 初森 法入信并津中と法入のゆきも物さ知ん 橋守村

足柄お葉 日 古吹 足柄のぶたお葉のらるる法入と雲上梅居る吹 昨町

厚 日 本 法入信并安被代のくも物ささくしお物 森吉

岸森 日 法入信并をさ流る流るわはれは流るる流る 古川

徳久 日 夏雲の月と法入と雲とら梅居の里にさるん 五岳

高 日 花居流る物ささくも物ささくも梅居る吹 深井村

因幡 日 夕暮れと月早と法入信并をさ流るる流る 森吉

諸 日 法入信并のさく法入の流るる流るりゆり月を 森吉

藤 日 法入又りおよじと法入信并をさ流るる流る 弘和

藤 日 法入信并のさく法入の流るる流るる流る 法入

駒 日 法入のさく法入をさ流るる流るる流る 弘和

長子 日 月影の法入の流るる流るる流るる流る 日

川 日 法入信并の流るる流るる流るる流る 弘和

八海 日 法入川を流るる流るる流るる流る 弘和

放物 日 法入信并を流るる流るる流るる流る 弘和

本常

佐治

るる初森と流るる流るる流るる流る

ちんくまにりりてむらりて伝法の
ゆづり

高嶺

冬産

白雲がたりをりて川にのりて根や山に

徳園

本蔵

新物

本蔵の本草に載る神のくわの草と云

本草

菜

後漢書

伝法の本草に載る神のくわの草と云

本草

花

後漢書

吹花の本草に載る神のくわの草と云

本草

文科

後漢書

文科の本草に載る神のくわの草と云

本草

風越

新物

風越の本草に載る神のくわの草と云

本草

抄中

抄六

抄中の本草に載る神のくわの草と云

本草

梅

冬

梅の本草に載る神のくわの草と云

本草

花

日

花の本草に載る神のくわの草と云

本草

草

日

草の本草に載る神のくわの草と云

本草

河川

日

河川の本草に載る神のくわの草と云

本草

河

日

河の本草に載る神のくわの草と云

本草

田

日

田の本草に載る神のくわの草と云

本草

菅

日

菅の本草に載る神のくわの草と云

本草

伏

日

伏の本草に載る神のくわの草と云

本草

海

日

海の本草に載る神のくわの草と云

本草

雲

日

雲の本草に載る神のくわの草と云

本草

雲

日

雲の本草に載る神のくわの草と云

本草

雲

日

雲の本草に載る神のくわの草と云

本草

雲

日

雲の本草に載る神のくわの草と云

本草

馬

本

馬の毛を以て馬毛と云ふ

馬毛

常陸

日

常陸の地を以て常陸と云ふ

常陸

豊後

日

豊後の地を以て豊後と云ふ

豊後

神

日

神の地を以て神と云ふ

神

真奈

日

真奈の地を以て真奈と云ふ

真奈

細谷

日

細谷の地を以て細谷と云ふ

細谷

のそくつとてゆめりつとて

しつとて

松

松の地を以て松と云ふ

松

竹

竹の地を以て竹と云ふ

竹

草

草の地を以て草と云ふ

草

松

日

松の地を以て松と云ふ

松

竹の地を以て竹と云ふ

草の地を以て草と云ふ

細谷

日

細谷の地を以て細谷と云ふ

細谷

花

日

花の地を以て花と云ふ

花

草

日

草の地を以て草と云ふ

草

竹

日

竹の地を以て竹と云ふ

竹

草

日

草の地を以て草と云ふ

草

竹

日

竹の地を以て竹と云ふ

竹

竹

竹

竹

日

竹の地を以て竹と云ふ

竹

月

日

月の地を以て月と云ふ

月

竹

申良

日華

此は海申良は漆の羽調意は竹より薄くとも

好小松

類

本

此は海類の羽の計けくとも類意より竹の板

重南下

木丸致

瓶茶

治津よりゆりゆりくるにき類とてなり

やうんくゆりくるよこれと知てりせ

ゆいさくしきとてしる

後述

名宗及人あつてゆめはた本丸致とては

本丸致

選子同致といはれりゆりくるゆり

きよのゆりくるゆりくるゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

とうせゆりゆり

林垣

全盛

林垣は本丸致ゆりゆりゆり

本丸致

羽名

羽名

羽名は本丸致ゆりゆりゆり

天智堂

町

羽名

町は本丸致ゆりゆりゆり

本丸致

橋

本丸

橋は本丸致ゆりゆりゆり

後教

萩

本丸

萩は本丸致ゆりゆりゆり

公彦

林与子

本丸

林与子は本丸致ゆりゆりゆり

信文

橋

本丸

橋は本丸致ゆりゆりゆり

大丸

お糸

本丸

お糸は本丸致ゆりゆりゆり

乃家

弓楸楸

大和

寐月

後白

あつちの月をいふ人か秋の秋は秋は

人言

春白

日下

いかに河波も春白く秋は秋は

人言

春白

風船

春白は風の舟も春白く秋は秋は

人言

春白

秋風

春白く秋は秋は秋は秋は

人言

新古今

日

春

新古今

春の白く秋は秋は秋は秋は

人言

春

新古今

春の白く秋は秋は秋は秋は

人言

花

新古今

花の白く秋は秋は秋は秋は

人言

柳

新古今

柳の白く秋は秋は秋は秋は

人言

蹴踏

日

蹴踏の白く秋は秋は秋は秋は

人言

卯花

日

卯花の白く秋は秋は秋は秋は

人言

菜

日

菜の白く秋は秋は秋は秋は

人言

萱

日

萱の白く秋は秋は秋は秋は

人言

薔

日

薔の白く秋は秋は秋は秋は

人言

糸

日

糸の白く秋は秋は秋は秋は

人言

中

新古今

日

妹

新古今

妹の白く秋は秋は秋は秋は

人言

玉

新古今

玉の白く秋は秋は秋は秋は

人言

溪

新古今

溪の白く秋は秋は秋は秋は

人言

糸

新古今

糸の白く秋は秋は秋は秋は

人言

橋

妻橋のつらみさうりさうり中島の津波の足

花

花の匂いと評とさかむわゆる島屋の足

月

月ありあけの影さうりさうり由良島屋の月

海

海に舟も中島津波さうりさうり津波さうり

郭

郭のつらみさうりさうり由良島屋の足

舞

舞のつらみさうりさうり由良島屋の足

松

松のつらみさうりさうり由良島屋の足

山

山のつらみさうりさうり由良島屋の足

洲

洲のつらみさうりさうり由良島屋の足

海

海に舟も中島津波さうりさうり津波さうり

万木社

山

山

橋

橋のつらみさうりさうり由良島屋の足

約

約のつらみさうりさうり由良島屋の足

系

系のつらみさうりさうり由良島屋の足

